

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

第21回NIE全国大会が4、5の両日、大分市で開かれ、全国から教育、新聞関係者ら約1400人が参加した。「新聞でわくわく社会と向き合うNIE」をスローガンに、パネルディスカッションや公開授業、実践発表を通して、新聞活用への議論と理解を深めた^{II}関連記事は2面に

4日の全体会では、地元大分県出身で芥川賞作家の小野正嗣・立教大教授が記念講演。小野さんは自らのエピソードを交え、共生社会によるパネルディスカッションでは、「楽しくなけれ

作家・小野正嗣さんの記念講演の要旨は次の通り。

僕が生まれ育った大分県の土地では、本を読んでいた大人はほとんどいませんでした。でも、新聞は読んでいました。祖父母は、あぐらをかいり正座をした大人はほとんどいませんでした。でも、新聞は読んでも新聞を読むのが好き

でした。脳腫瘍で入院した際、もうろうとしていても紙面を見つめていました。社会と世界とつながるために必要な行為だったのでしよう。

紙としての新聞には、いろいろな使い道があります。美しいものから汚れたものまで、あらゆるものを持っています。新聞は現実そのものを包み込みます。新聞を編み上げる言葉が包むのは、美しいものや強いもの、喜びばかりではありません。傷つけられたりして読んでいました。

今、インクルージョンとかインクルーシブという考えの重要性が語られています。インクルーシブな社会とは、貧困や障害によつて孤立したり排除されたりしない社会。互いに支え合つて共生する社会です。そこで、新聞が社会にとつて大切な役割を担っていることが分かります。

新聞は、言葉として世界の現実そのものを包み込みます。新聞を編み上げる言葉が包むのは、美しいものや強いもの、喜びばかりではありません。傷つけられたりして読んでいました。

中標津では、スクランプ新聞講座の作品がセミナー会場に掲示され、参加者の視点が示されました。中標津では、スクランプ新聞講座の作品がセミナー会場に掲示され、参加者の関心を呼んだ。また加盟各社が提供するNIE教材コーナーも本年度から各会場に設けられており。ふだん目にすることがない、配布エリア外の地方紙の現物の提供もあり、先生方に好評だ。

全国大会記念講演 喜び、悲しみや怒り…新聞は現実を包み込む



5日の公開授業でグループごとに話し合う児童たち

授業では、生徒たちがグループごとに意見をまとめ、適切な運動が心身の健康に効果があることを学んだ。主権者教育をテーマにした特別分科会では、子どもたちを主権者に育てるため、小学生から大学までどのような教育が必要か、そこでNIEが果たす役割とは何かについて、参加者が話し合った。



セミナー会場の白鳥台小で前授業を行う開発好博コーディネーター

NIE全国大会 大分に1400人

社会と向き合う実践を論議

本年度地区セミナー開始会場校で出前授業も

北海道NIE推進協議会主催の本年度のNIE地区セミナーが、6月2日の釧路町セミナー(会場・釧路東高)を皮切りにスタートした。網走、中標津、稚内、石狩、小樽の各セミナーも

開催された。中標津セミナーは、過去に開催実績がなかった根室管内で初めての実施。これで道内すべての管内の開催が実現した。

^{II}各セミナーの様子は3面に

た。

5日は15の公開授業、実

校で協議会事務局が出前授業を行う試みもスタートした。初回の網走セミナーでは、白鳥台小の全校児童を対象に、開発好博NIEコーディネーターがスクランプ新聞づくりを指導した。

子供たちは、事前に加盟社から提供された子ども新聞や一般向けの朝刊各紙の中から、「動物」「スポーツ」など好みのテーマの写真や記事、広告を取り抜いて台紙に貼り、見出しやコメントを書き入れて自分だけの新聞を作った。高学年では、米国大統領選や東京都知事選など選挙をテーマに選んだ児童もあり、多様な視点が示された。

新聞は、言葉として世界の現実そのものを包み込みます。新聞を編み上げる言葉が包むのは、美しいものや強いもの、喜びばかりではありません。傷つけられたりして読んでいました。

中標津では、スクランプ新聞講座の作品がセミナー会場に掲示され、参加者の視点が示された。また加盟各社が提供するNIE教材コーナーも本年度から各会場に設けられており。ふだん目にすることがない、配布エリア外の地方紙の現物の提供もあり、先生方に好評だ。

全国大会。パネル討論

第21回NIE全国大会

大分市)のハネルテイスがツヨンは4日で亡くなった。テ

マは「楽しくなければN

IEじゃない！「私たちはなぜ新聞活用に取り組むのか」その意義と実践のこつを紹介する。主な発言内容を紹介する。

実践者への助言は、
関口 子どもにとつて楽しい授業とは、タイムリーであること、リアリティーがあること、自ら成長を実

感のこと。教師にとつては、子どもが主体的に生き生きと学習する姿を見ることが、NIEは組織で実践した方が良い。大人数で取り組めば互いに情報交換でき、内容に深みと広がりが出る。小中高の連携も大切だ。系統的な指導が可能になる。

塙川 子どもたちを新聞に出合わせ、将来へ種まきする感覚で取り組むと樂しめるようになる。

渡辺 小学校低学年でも

◆コーディネーター 塩川美紀さん（日田市立三芳小教諭）
渡辺美加さん（大分合併新聞報道部記者）
佐藤由美子さん（大分市立碩田中2年）
早希さん（大分市立碩田中2年）
◆司会者 気に入った写真だけを切り抜いて紹介し合うなど、達段階に応じて取り組み

に参加した感想や意見を聞くため、大分県NIE実践研究会が6月、小中学生8人を集めて「子ども会議」を開いた。渡辺 みんな堂々と自分の考えを述べ、他の意見もポジティブに受け止めていた。子どもたちに、意見の違いを超えて多様性を認める力が備わっていることを感じた。新聞教材が魅力的なものだと分かった。

亘鍋 自分の学校と違う取り組みを知り、同じ新聞を使つた授業でも内容が異

佐藤 N.I.E の今後について聞きたい。
がすごく楽しい。
でいることは、社会とのつながりを持つことなんだと感じた。もっと新聞を深く読んで、一つ一つの出来事に興味を持つていきたい。
渡辺 子どもたちの力を引き出すことができるのN.I.E. 新聞の作り手として、活動を根付かせたい。親子ともにその素晴らしさを

芽生えたNIEの種が、どう育つか楽しみだ。
小野 大切なのは、子どもがわれを忘れて楽しむ時間を作ること。新聞を読む行為には、人として生きていくために役に立つという明らかな意義がある。

関口 子どもにとって、社会と学習をつなぐ窓となるのが新聞。深く主体的に学ぶため、効果的に新聞を取り込むことがNIEに課せられている。組織化、(効果の)見える化、日常化が必要だ。

◆ハネリアト

る。授業の導入場面で使つたり、グラフやデータだけを抜き出すなど、さまざまなかつては方ができる。

なることが面白かった。新聞を通して人と議論するのには、その人の考え方を知る良いきっかけになる。自分の意

教えることができる。
塩川 子どもたちはN—I-Eを通じて、日常生活にニコニコ感覚がらぶらぶらしながら、

全国大会に参加して



社会と向き合うNIEである。「日本一のおんせん県おおいた」での大会は、温泉でシンクロをする「シンクロ」の動画を紹介するなど、地元色あふれるものとなつた。

1日目の記念講演では、小野正嗣氏（作家、立教大学文学部教授）が新聞の役割や文学との違いを語つた。小野氏は、新聞を読むことは「思考の筋力をつけるた

を読むことの土台になるとともに、考えるための語彙を増やすことにもつながる」と述べた。また、新聞は「社会となるがるツール」であ

札幌光星中学校・高校教諭 本多 由佳

基調提案では、中教審が示した「特にこれから時代に求められる資質・能力」を育むための課題として、NIEの組織的な推進とカリキュラム化、新聞活用のための教材開発、新聞のある環境づくりが挙げられた。

続くパネルディスカッションでは、大分県の実践研究会による「NIE子ども会議」が話題となり、NIEの楽しさについて「自分の意見がもてる」「他の人の意見が聞ける」と語る子どもたちの生き生きとした姿が紹介された。小野氏の「即効性のある学びが求められがちだが、NIEタイム（朝活動）

求められる主権者教育 NIEに新たな意味

は人を豊かにしてくれる」というコメントに、NIEの意義が凝縮されていると感じた。

えることが主権者教育の第一歩である」という言葉が印象的だった。社会への関心や主体性を育てる「広義の主権者教育」においては、新聞を通じて社会との接点を持ち、アクティブ・ラーニングにより表現力を培うことの重要性を再認識した。

今大会を通して、主権者教育の実践が求められる今日において、新聞の役割がNIE実践が新たな意味を持つたと感じた。大分の子たちの姿を見て、私もおもくわくしてきた。新聞を通して子どもと社会をつなぎ、生き生きと意見を交わせる主権者を育てていきた。

は人を豊かにしてくれる」というコメントに、NIEの意義が凝縮されていると感じた。

2日目は「大分県をより良くする政策を考える」という高校2年の公開授業に参加した。5つの政党に分かれて県の課題を解決するための政策を発表し、他政党の政策を評価する授業である。政策の柱を立てた上で論理的に主張を組み立てて、いる発表や、政策の妥当性について掘り下げる質問があり、表現力や主権者に必要な判断力が育まれている様子が見えた。

もう一つ参加した特別分科会「主権者教育とNIE」では、「ローカルな問題を考

えることが主権者教育の第一歩である」という言葉が印象的だった。社会への関心や主体性を育てる「広義の主権者教育」においては、新聞を通じて社会との接点を持ち、アクティブ・ラーニングにより表現力を培うことの重要性を再認識した。

今大会を通して、主権者教育の実践が求められる今日において、新聞の役割がNIE実践が新たな意味を持つたと感じた。大分の子たちの姿を見て、私もおもくわくしてきた。新聞を通して子どもと社会をつなぎ、生き生きと意見を交わせる主権者を育てていきた。

公開授業はセミナーの花



自分たちでつくる新聞の取材テーマを発表し、話し合った公開授業



わが地域ここがすごい

第1回根室地区・中標津

セミナーは7月5日、根室

管内中標津町の俵橋小で開

かれた。約40人が参加した。

同管内の地区セミナー開

催は初めて。

俵橋小の丸山宣雄教諭が

5、6年生の学級で「ここが

すごいぞ俵橋」をテーマに授

業を公開した。俵橋小は

地域の良さを新聞にする学

習に取り組んでいる。子ど

もたちは自慢の施設や人

物などを挙げ、何を取材す

るか、どんな質問をするか

などについて意見を出し合

つた。

実践発表では、標津町立

川北中の窪田圭祐教諭が新

聞記事を使つた北方領土学

習、標津高の佐藤昌彦教諭

が新聞投稿欄を使った国語

授業について報告した。

10年後の未来

予想記事熱く

釧路管内釧路町の釧路東

高校を会場に6月2日に開

かれた第15回釧路地区・釧

路町セミナーでは、参加者

約40人が見つめるなか、同

校の五十嵐猛教諭が新聞を

活用した国語の授業を公開

した^{写真}。

事前にクラスを5人程度

の班に分け、新聞各紙を基

に10年後の未来を予想する

記事を作成させた。当日は

班ごとに予想記事を発表

し、全員で意見交換した。

NIE地区セミナーは、9月以降も各地で予定されている。また、11月には北海道セミナーも開催される。当面の日程と内容は次の通り。

【9月】▽第3回上川地

区・富良野^{29日(木)}

、富良野市立扇山小。

公開授業

○富良野ロータクアトクラ

ブ、富良野高・水野雅文教

論



新聞の活用法

実践例を紹介

新聞の活用法

実践例を紹介

「新聞をどう教材化する

か」のグループ演習も行わ

れ、参加者は用意された各

紙の記事から、授業に使え

そうなものを選び発表し

た。

利尻町立沓形小の高橋正

一教頭が新聞活用講座とし

て、国語や道徳での新聞を

教材に使つた実践例を紹介

した^{写真}。たとえば

「ポケモンGO」を扱つた

2紙の記事を読み比べ、似

ているところと異なるこ

とを考え方をまとめて、

それを説明した。

「新聞をどう教材化する

か」のグループ演習も行わ

れ、参加者は用意された各

紙の記事から、授業に使え

そうなものを選び発表し

た。

遠軽町立白滝中の高橋了

教諭は熊本地震の記事を題

材に奉仕について考えた道

徳の授業、斜里高の井村了

介教諭は社説の読み比べを

通して自らの考えをまとめ

る地歴公民科の授業について、実践発表した。

第6回宗谷地区・稚内市

セミナーは7月28日、稚内市

教育大釧路校・内山隆准教

授、道教委・工藤淳指導主

事

第5回石狩地区石狩セミ

ナーと第2回後志地区小樽

セミナーの模様は次号で紹

第14回オホーツク地区・網走セミナーは6月22日、網走市の白鳥台小で開かれ、約30人が参加した。

白鳥台小の神田秀樹教諭が3、4年生の道徳「生き物を大切にすることは」を公開した^{写真}。神田教諭は「青い二ホンザリガニ保護条例」に関する網走市議

会での動きと、エゾシカの農業被害と駆除を伝える新聞記事を紹介した。子供たちは「駆除される命」「保護される命」の現状について、意見交換しながら考えを深めた。

遠軽町立白滝中の高橋了教諭は熊本地震の記事を題材に奉仕について考えた道徳の授業、斜里高の井村了介教諭は社説の読み比べを通じて自らの考えをまとめた実践発表した。

第6回宗谷地区・稚内市

セミナーは7月28日、稚内市

教育大釧路校・内山隆准教

授、道教委・工藤淳指導主

事

第5回石狩地区石狩セミ

ナーと第2回後志地区小樽

セミナーの模様は次号で紹

介します。

（3）



置戸中学校で出前授業を行う筆者。情報の食べず嫌いにならないよう新聞を読もうね

バタフライ効果

4年前、「新聞力フェスティバル」なる催しを北海道教育委員会が行つたことがある。若い人の活字離れの歯止めにと1年間で20回。札幌駅前にあるサテライト教室で、教員を目指したり、就職活動をしたりしている学生と一緒に新聞を読む（開く）試みを考えた。堅苦しいものではなく、毎回10人前後、多い時でも15人ほどで机を囲み、車座になつて、おのおのが新聞を開き、独り言のように記事の感想や疑問を口にする。役割はコーディネーター的なもので、記事の背景

選挙権が18歳以上に引き下げられた7月の参院選。北海道の投票率は56.78%だった。道選管が270か所の投票区のうち4か所を選んで行つた調査では、18歳が46.55%、19歳が38.57%。全年代の平均に比べ、それぞれ10・73ポイントト、18・21ポイント低かった。自分で考

編集後記

○…NIE関連の仕事をするようになって2カ月。出前講座などで子供たちと接するのは楽しい体験ですが、一方どう語れば子供たちが新聞に興味を持つかという難しい課題も抱えることになりました。物心ついた時には新聞がその辺にあった自分の世代とはわけが違います。

○…そんな中で「これは」と思ったのが近年話題の「まわしよみ新聞」。いわばアナログ版カット&ペーストですが、ネット情報のコピー&ペーストのような安直な印象はありません。人と人とのコミュニケーションを取りながら実施するので温かみがあります。新聞になじみのない人が増えている今の時

代に合った新聞入門であり、情報のごった煮である新聞の特性が生きる方法でもあります。

〇…「まわしよみ新聞」より前からある「スクラップ新聞」や、この面のリレーエッセー「多紙彩々」で読売新聞の平野達雄さんが書いている「新聞カフェ」にも似たような狙いを感じます。学校現場でもこの種の時代に合ったアプローチが広がることを期待します。(瑠)

◆
「ほっかいどうNIE通信」
ではイベントや勉強会などの
掲載情報を受け付けていま
す。北海道NIE推進協議会
事務局（北海道新聞NIE推
進センター内、☎ 011・210・
5802、FAX 011・210・5826、
メール nie@hokkaido-np.co.jp
）までお寄せください。

う。「ブラジルでの蝶の羽ばたきは、テキサスで竜巻を発生させるか」——。米国の気象学者E・ローレンツの講演タイトルで、最初の誤差がチョウの羽ばたき程度の小さなものでも、離れたところでは竜巻が発生するほど大きなものになる可能性がある。予測可能性を表す言葉だが、小さな現象が時間とともにどんどん広がり、大きな現象を生み出す

長 平野 達雄

題にのほりと「何面でか」。

り思つてゐる。取り組みの積み重ねが大きくなうねりになつてほしいと思つてゐる。

十勝新聞教育研究会の阿部
英一事務局長（豊頃小学校
教頭、**☎**015・574・
2619）へ。

「アフガニスタンってどこにあるんだつけ」「あそこよ。のそこ。イランの隣」。「談合で必要悪だよね」「社会は競争が原則だからね」。「この人生相談のお嫁さん。分かるわ気持ち」。「この広告」九州は明日、台風なの」黒三角が多いね（商況欄を見て）。「こんな調子で、たぶり2時間。興味のない記事が話題に話す。参加者は学生ばかりでなく、一般も可。中高年の参加率は高かつた。

選挙戦最中に置戸中学校で出前授業にでかけた。学校で取り組む壁新聞へのアドバイスが目的だったが、記事の書き方、レイアウトから新聞の役割まで。そして「新聞は知識の偏食をなくす。食べず嫌いにならないためにも、新聞を読もうね」。「18歳選挙権」の導入で、生活の中にある教材として、新聞の役割が大きいこと

11月に帯広で十勝新聞教育研究大会が開催される。主催は北海道十勝新聞教育研究会（中村宏喜会長）。研究主題は「心を育て心をつなぐ新聞教育」。稲田小の石川直人教諭が1年生対象の研究授業を行うほか、実践発表も予定している。問い合わせは北海道十勝新聞教育研究会（中村宏喜会長）。